

平成25年度 当初予算が成立

「明るく強いふるさと福井」の創造に向けて

2月定例県議会において、平成25年度当初予算が成立しました。

昨年は、北陸新幹線の敦賀までの着工が決定されるなど、本県の将来の発展に向け、大きく前進した年でした。

一方、2年後に北陸新幹線の金沢開業や舞鶴若狭自動車道の全線開通が迫り、長期的には、新幹線の建設が進むこの10数年が、本格的なまちづくりを進める絶好の機会です。

そこで、今回の当初予算では、このような時代の転換期にあって、皆さんと一緒に「明るく強いふるさと福井」をつくり上げるという観点から、次の5つの重点施策を柱としました。

さらに、耐震補強のための公共事業など、総額で277億円もの経済対策を2月補正予算で追加。過去2番目の規模であり、当初予算と合わせ、経済対策の効果を最大限発揮していきます。

5つの重点施策

- 新幹線時代にふさわしいまちづくり
- 地域間競争を勝ち抜く観光・ブランド戦略
- 新たな時代に飛躍する産業
- 暮らしやすさを高める環境・医療・福祉
- 未来を担う人づくり

予算の規模

会計区分	25年度当初予算
一般会計	4,770億6,765万円
特別会計	135億7,348万円
企業会計	323億9,842万円
合計	5,230億3,956万円

① 新幹線時代にふさわしいまちづくり

北陸新幹線の整備を推進

昨年、県内着工した北陸新幹線は、長期の工期が見込まれる九頭竜川橋りょうの設計や、新北陸トンネルの掘削工事が本格的に始まります。

災害に強い国土形成と地域経済の活性化に向け、早期の完成・開業を目指します。



平成26年度末の金沢開業時に導入される新型車両のイメージ

福井を元気にする北陸新幹線

沿線市町のまちづくりを応援

北陸新幹線の金沢開業や敦賀延伸に向け、沿線の市町がまちづくりの方向性や具体策などを考える「まちづくり検討会」や、住民がまちづくりのアイデアを出し合う「まちゼミ」などの開催を支援。新幹線時代のまちづくりについて議論する気運を高めていきます。

県都デザイン戦略を実行

2050年を見据えた県都・福井のまちづくりの指針となる「県都デザイン戦略」を今月策定。

県民会館跡地を活用し、福井城址と中央公園の一体性を高める公園の整備に着手するとともに、山里口(やまざとぐち)御門を復元します。

また、幕末の志士ゆかりの地や異人館など、歴史を活かした拠点づくりのほか、足羽川に船着場を整備。

福井駅西口の駅前広場と再開発ビルの整備については、福井市を支援し、本県の玄関口にふさわしいまちづくりを進めていきます。



県民会館跡地周辺整備のイメージ

地域交通対策を促進

北陸新幹線の敦賀開業時にJRから経営分離される並行在来線については、通勤・通学に欠かせない地域鉄道として存続を図るため、並行在来線対策協議会を設置し、今後のあり方について検討を開始します。

えちぜん鉄道と福井鉄道の相互乗り入れに向け、ホーム改修やLRV(超低床車両)導入を進め、平成27年度からの運行開始を目指します。

観光スポットが点在する坂井市三国地区や、自然再生のシンボル「コウノトリ」の飼育拠点である越前市白山地区などに、超小型電気自動車(EV)を導入。新たな移動手段として、県内全域への普及につなげていきます。



福井鉄道のドイツ製車両導入も支援

② 地域間競争を勝ち抜く観光・ブランド戦略

観光まちなみの魅力をアップ

平成26年度の北陸新幹線金沢開業、舞鶴若狭自動車道の全線開通に向け、地域の特性を活かした観光地のレベルアップを応援。

嶺北では、あわら温泉での湯のまち広場の整備や、福井市浜町界限、永平寺門前、今庄宿での歴史・文化を活かした観光拠点づくりを進めます。

嶺南でも、敦賀金ヶ崎での赤レンガ倉庫や鉄道・港のジオラマの整備、縄文ロマンパークの再整備など花と光をテーマにした三方五湖周辺の整備、小浜西組周辺でのまちなみ景観整備を進め、誘客拡大につなげます。



あわら温泉に足場が楽しめる「湯のまち広場」を整備(イメージ)

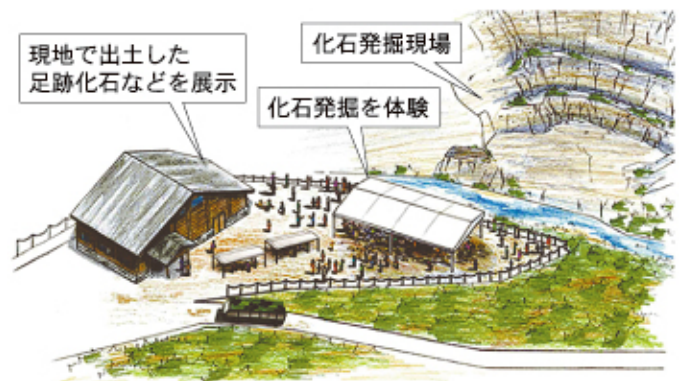
「恐竜王国ふくい」のブランド向上

恐竜博物館一帯で自然体験学習などが楽しめる「恐竜キッズランド構想」の実現に向け、来年夏のオープンを目指し、実物の

足跡化石などの見学や化石発掘体験ができる野外博物館の整備に着手。また、第4次恐竜化石発掘調査を開始し、新たな化石の発見を目指します。

加えて、恐竜博物館を中心に、奥越の自然と食、永平寺などを体験する滞在型ツアーや、大阪・名古屋方面からの日帰り直行バスの運行により、誘客を強化します。

さらに、本県が中心となり「アジア恐竜協会」を設立するほか、県立大学に「恐竜学研究所」を新設。国際シンポジウムを開催し、アジアにおける恐竜研究の拠点化を目指します。



来年夏オープン予定の野外博物館(イメージ)

県立施設の観光機能を充実

一乗谷朝倉氏遺跡では、電柱・電線の地中化などにより、美しい景観をつくるほか、スマートフォンによる遺跡情報の案内機能を強化します。

若狭歴史民俗資料館では、寺院の協力を得て貴重な仏像を順次公開するほか、絵巻や屏風などの文化財や大型の山車飾りを展示するなど全面的にリニューアルします。



大型水槽を設置した
海浜自然センター(イメージ)

越前陶芸村には、古民家を活用した越前古窯の情報発信拠点を整備。和紙や漆器、打刃物など伝統工芸品の産地とともに、子どもたちが伝統の技を学び、体験できる機会を充実します。

海浜自然センターには、大型水槽を設置し、若狭湾の魚介類の生態や特徴を体感できる展示に一新。三方五湖を紹介するビジターセンターの機能も加え、リピーターを増やします。



観光客が大幅に増えている一乗谷朝倉氏遺跡

首都圏などに福井を売り込み

福井の美しい自然環境と食などの魅力を紹介するプロモーションビデオを制作し、北陸新幹線沿線のマスメディアなどへの営業を強化。大宮、高崎、長野、金沢の各駅で行ってきた大型広告等の掲出や出向宣伝を、東京駅と上野駅でも新たに行います。

また、「福井県の物産と観光展」を大宮で初めて開催し、本県への観光誘客と県産品の販売を促進します。



新幹線沿線エリアの主要各駅で福井をPR

食ブランドを全国に発信

4月に東京「ふくい南青山291」のサテライトショップ「食の国 福井館」を銀座へ新たに出店。福井の特色を活かした農水産加工品や菓子・スイーツなどの商品に、専門家や消費者、流通関係者の評価による改良を加えながら、首都圏のスーパーや百貨店などでの販路開拓につなげ、福井の「食ブランド」を強力にアピールします。

11月の第2日曜日から第3日曜日までの「ふくい 味の週間」には、食のイベントや食育活動を集中的に開催。越前がにと味の週

間を合わせたツアーを新たに企画するなど、県外から多くの観光客を呼び込みます。

「鯖街道」や「半夏生(はんげしょう)さば」など、サバが浸透している本県で、これまで外国産サバで作られていた「焼さば」などの加工品に国産サバを増やし、「越前・若狭のさば」ブランドとして定着させます。



サテライトショップで食をアピール(イメージ)

アニバーサリーを活用

本県ゆかりの岡倉天心の生誕150年を記念し、美術展やフォーラムを開催。県民に天心の偉業についての理解を深めてもらうとともに、天心の魅力を全国に発信します。



「茶の本」などの英文著作で東洋文化を海外に紹介した岡倉天心

世界少年野球大会を開催

世界15か国・地域の子供たちが参加する「世界少年野球大会」を、王貞治氏が理事長を務める世界少年野球推進財団とともに嶺南地域で開催。野球教室や地元チームとの交流試合、市町主催の交流行事などを通じて、国際親善を深めるとともに、嶺南の魅力を世界にアピールします。



王貞治理事長が西川知事を表敬

③ 新たな時代に飛躍する産業

産地ブランドの向上、ふくい産業遺産の継承

福井の伝統産業や地場産業のブランド力向上のため、国際見本市への出展を通して、知名度と高い評価の獲得を目指す産地グループを支援します。

また、歴史的な価値のある製造設備・器具や、長年にわたり手工業で生産されてきた製品・製造技術を、「ふくい産業遺産」、「ふくい手しごと」として認定。産業遺産の保存・活用や、手しごとの技術を継承する若者の起業などを支援します。



若狭粘土瓦の「だるま窯」

医療産業の創出を支援

繊維、眼鏡、機械など、高度なものづくり技術を誇る県内企業の医療機器分野への新規参入や販路拡大を目指し、医療機関と企業の情報交流の場を設けるほか、開発した製品の医療学会などでの売り込みを支援します。

新しい時代の農業を推進

新たに、生産から加工・販売まで一貫して取り組む農林漁業者を増やし、新商品の開発を促進。大規模な企業的農業経営を目指す農業法人や企業による機械・施設等の整備を支援し、園芸生産をさらに拡大します。

食味ランキングで最高の「特A」評価を獲得した福井米のさらなる品質向上を目指し、県内全ての集荷施設で食味検査に基づく区分集荷を行うほか、特別栽培などのこだわり米に統一名称「にっぽんのふるさと福井 厳選米」を付け、首都圏などでの販売を拡大します。



こだわり米に統一名称を付けて販売強化

新たなエネルギー事業を検討

エネルギーを取り巻く環境の変化を踏まえ、LNGをはじめとする新たなエネルギー事業の誘致、地場産業への波及効果などについて検討していきます。



県LNGインフラ整備研究会を開催し、福井の将来の産業政策を議論

嶺南地域の産業を活性化

経済情勢の悪化が懸念される嶺南地域に常設の特別相談窓口を設け、企業の経営改善や商品力、販売力の向上を支援。県と産業支援機関、金融機関、専門家による特別支援チームが、企業の課題に応じてきめ細かくサポートします。

また、嶺南の魅力的な商品を嶺北地域のスーパーなどで販売したり、大手通販サイトで特集ページを設けるなど、嶺南の事業者の販売力を強化します。



定置網を使っておいしい地魚を水揚げ

水産業では、定置網の導入を進め、漁業体験や観光との連携を促進。嶺南地域を中心に養殖用いけすを増設し、トラフグ、マダイなどを増産します。



嶺北の店舗で嶺南の逸品コーナーを開設

④暮らしやすさを高める環境・医療・福祉

豊かな自然環境を保全・活用

9月に本県で開催される「SATOYAMA(サトヤマ)国際会議」の期間を含む1週間を「SATOYAMAウィーク」と位置付け、小学生が活動成果を発表し合うフォーラムや、海外からの参加者や全国の活動団体との交流、県内の里山視察など、各地で関連イベントを開催します。

また、都市住民と一緒に県内の里山を保全・再生する地元団体の活動を支援するほか、会議開催後には、「里山里海湖(さとやまさとうみ)研究所」を設置。生物多様性の確保と福井の豊かな暮らしの継承につなげていきます。

さらに、昨年7月に、水月湖(すいげつこ)の湖底から採掘した「年縞(ねんこう)」(堆積物の年輪)が、地質学的年代の世界標準として認められたことを解説するDVDやパネルを作成し、教材として活用するなど、学術的な価値の高さを国内外にアピールします。



学術的に価値の高い水月湖の年縞

がん対策を充実

4月から新たに、パソコンなどを利用し、いつでも気軽にがん検診の予約ができる全国初のシステムを導入するほか、市町のがん検診受診券の発行対象者を大幅に拡大し、がん検診の受診率50%を目指します。

また、がん専門医を育成するとともに、県立病院では新たな放射線治療装置の導入に向けた基本設計に着手するなど、がん診療体制を強化します。

加えて、がん患者が、気軽に相談できる窓口を病院以外の場所に開設するなど、がんになっても安心して暮らせる社会をつくります。



がんの出前検診で受診機会を拡大

子育て支援・結婚対策を強化

企業で初めて、従業員が、育児休業を子どもが1歳になるまでの間、取得した場合に奨励金を支給するほか、1歳から2歳児の保護者が、育児のための短時間勤務により、保育園に子どもを預ける時間を短縮した場合の保育料軽減分を補助。子どもが3歳になるまでの、家庭での子育てを応援します。

また、企業や団体とともに、未婚の若者の交流の場を設け、出会いの機会を増やすほか、結婚相談員と地域の縁結びさんの活動をさらに後押しし、若者の結婚を応援します。



父親子育て応援企業を表彰するなど、家庭での子育てを強力にサポート

健康づくりを応援

高齢者の認知症予防や身体機能の維持に効果のあるウォーキング、ラジオ体操、冬場でもできる運動をさらに普及させ、全国トップクラスの健康寿命をさらに延ばします。

また、福井の豊富な食材を活かし、低塩分野菜を多く使った食事を「ふくい健幸美食(けんこうびしょく)」として発信。飲食店での提供のほか、スーパーの総菜や家庭料理にも拡大し、生活習慣の改善を目指します。



ラジオ体操で健康づくり

⑤ 未来を担う人づくり

「福井型18年教育」の推進

昨年開設した「幼児教育支援センター」が中心となり、保護者や祖父母を対象とした家庭教育に関する出前講座を開催するほか、グッド・トイや絵本、童謡を通して、家族が触れ合う機会を増やします。また、保育所・幼稚園と小学校をつなぐカリキュラムの試行や、保育士や幼稚園教諭向けの研修を通じて、幼児教育をさらに充実します。

さらに、併設型中高一貫教育を導入するため、平成27年4月、高志高校に附属中学校を設置。全体構想の策定や、施設・設備の検討など、準備を進めていきます。

聞ける、話せる英語教育

NHK語学番組の講師による教員研修など、語学指導に関する長年のノウハウを持つNHKとの連携を強化。小学4年生を対象に英語版の童話や動画を活用して英語に触れる機会を増やし、5年生からの外国語活動に備えます。

また、高校生を対象とした海外語学研修や英語キャンプなど、英語だけで生活する機会を設け、英語を学ぶ意欲や能力を高めます。



高校生を対象とした英語キャンプ

教員の授業力と生徒の学力を向上

「若手教員授業力向上塾」の開催や「授業改善重点実践校」の指定など、授業・カリキュラムを充実させる新たな体制をつくり出す。

また、高校の授業名人などによる模範的な教え方を映像化し、教員間の学び合いに活用するなど、生徒にとって分かりやすい指導方法を広めていきます。

子どもの個性や才能を伸ばす教育の実践

中学生を対象に技術者等による専門的な講義や実験を行う「夏休み科学実験チャレンジ教室」を新たに開催。「理数グランプリ」への参加を促し、科学的な思考力を高めます。

また、触れることの少ない弦楽器を小学生に体験させたり、中学校・高校の音楽部活動をレベルアップ。将来の県民オーケストラを担う人材を輩出するなど、県内音楽の質の向上を目指します。



将来の県民オーケストラの奏者を育成

教育文化施設を充実

平成26年度に県立図書館へ新設する「福井ふるさと文学館(仮称)」の整備に向け、今年度中に基本計画を策定。平成25年度には、展示内容や教育普及活動など、運営内容を具体化します。

また、平成28年度の開所に向けた再整備を進める芦原青年の家では、北潟湖や坂井北部丘陵など自然環境を活用した幅広い活動ができる施設となるよう、基本設計を行います。



「福井ふるさと文学館(仮称)」のイメージ

「文字の国 福井」を全国に発信

全国で独自の漢字教育を実践する人を表彰する「白川静漢字教育賞」を創設。白川文字学を全国に広め、学校における国語教育の改善を進めます。



白川文字学を全国に普及

福井しあわせ元気国体の準備を促進

県内全ての市町で競技が開かれる平成30年の福井国体。「織りなそう 力と技と美しさ」というスローガンのもと、マスコットキャラクターの制定や全小・中・高校での広報用横断幕の掲出により、県民総参加の気運を高めていきます。

また、競技会場となる市町の体育施設の改修などへの助成制度を設け、国体の施設基準を満たす施設を整備。

入賞実績のない競技の実戦練習や、トップレベルの指導者からの実戦指導を充実するなど、競技力の向上を加速させていきます。



ロンドン五輪に出場した中野希望(のぞみ)選手によるフェンシング教室

皆様のご意見をお寄せください

今回紹介した事業も含め、県の事業へのご意見やアイデアをお寄せください。

ご意見は常時受け付けています。

問 県政策推進課 0776(20)0258

当初予算の詳しい内容は、県のホームページに掲載されています。

Google 福井県 25年度当初予算

検索

問 県財務企画課 0776(20)0233

